

平成30年度 南アルプス市立若草南小学校 自己評価書

南アルプス市立若草南小学校
校長 河野良一

学校教育目標

「学びを深め、心豊かなたくましい子ども」

〔具体目標〕

- (1) 自ら学び、深く考える子ども (知)
- (2) 豊かな心で、思いやりのある子ども (徳)
- (3) 体をきたえ、最後までやりぬく子ども (体)

〔目指す学校像〕 学び合い 高め合い 信頼し合う 地域と共にある学校

〔育てたい児童像〕 ふるさとを愛する児童の育成 < 若南プライド >

〔若南プライド〕

地域の歴史・伝統・文化に気づき、自ら学び、体験する中で 地域に誇りを持ち、自尊心を高める積極的な活動に取り組む精神を醸成する。

〔学校経営の重点〕

1 「自ら学び 深く考える子ども」の育成を図る。

(教師集団による組織的・計画的な研究からの授業実践を展開する。)

- (1) 基礎的・基本的事項をしっかり教え、確実な定着を図る。(繰り返し学び、定着化を図る)
- (2) 学習スタンダードに基づいた授業を実践する。
(若南スタンダード、やまなしスタンダードの定着化)
- (3) 体験的活動や地域教材・地域の人材活用など積極的に取り入れ授業の活性化に努める。
(体験的活動、地域教材・人材の活用)
- (4) 学習規律の確立を図る。(学習用具の準備、ノートの取り方、授業終始時の挨拶)
- (5) 家庭との連携・協力を図り、確かな学力の定着化をめざす。
(宿題・自主課題の定着化、習慣化)

2 「豊かな心で 思いやりのある子ども」の育成を図る。

- (1) 共感的理解に努め、心が通い合う教育を推進する。
- (2) 自尊感情の育成を図る。(教育活動全体を通して、「自分を大切に思う心」の育成)
- (3) 学校教育全体を通して道徳教育をめざす。(考え議論する道徳 道徳教育の日常化)
- (4) より良い人間関係を築き、充実した学校生活を実現するための集団活動に取り組む。
(児童会活動、たてわり班活動の積極的な取組 自治的活動の醸成)
- (5) 読書活動・音楽活動を通して、豊かな情操・感性の育成を図る。

- (6) 豊かな人間性を育むため、充実した体験的活動に取り組む。
- (7) 礼儀正しい、規律ある学校をつくる。
 - ・場に応じた言葉使いができる。 (丁寧な言葉遣い)
 - ・基本的生活習慣の徹底を図る。(あいさつ・返事・靴そろえ・イス入れなど)
- (8) 美しい環境づくりに心がける。 (無言清掃(黙働清掃))
- (9) 人間尊重の精神、社会生活上のルールなどの倫理観、夢や生きがい感の醸成を図る。 (忠恕の心 キャリア教育の充実)

3 「体をきたえ 最後までやりぬく子ども」の育成を図る。

- (1) 教育活動全体を通して、安全・防災について実践的な指導を行い、日常の実践化を図る。
- (2) 給食の時間を中心に食育の充実に努める。
- (3) 粘り強く最後までやり抜く強い意志をもった心身共に健康な児童の育成を目指す。
- (4) 体力向上に向けて、充実した体育の時間・遊びの時間の確保、スポーツの奨励など積極的に推進する。(運動の日常化)

4 特別支援教育(特別支援学級・通級指導教室)の充実に努める。

- (1) 交流学級・在籍学級の担任、保護者・関係諸機関との連携を図り、指導の充実に努める。
- (2) 一人ひとりのニーズに対応した適切な指導・教育相談に努め、また、地域における児童の教育に関するセンター的な役割が果たせるように努める。(サポートルームわかくさ)
- (3) 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、その活用を図る。

5 連携・協働し、支え合う教職員組織をつくる。

- (1) 全教職員の総力・創意を出し合い、連携・協働し、支え合う教職員組織をつくる。
- (2) 教育公務員としての自覚を持ち、厳正な服務規律の確保に努める。
- (3) 保護者や地域との連携・協力を大切にされた教育活動を進める。(説明責任を意識した教育活動)

6 家庭や地域との連携の中で開かれた学校づくりを推進する。

- (1) 保護者や地域住民と連携・協力した教育活動を展開する。(連携・協力体制の確立)
- (2) 地域の一員としての自覚や地域を大切に思い、地域が誇れる心を醸成するための手立てとして地域の教材化と地域人材の活用、地域活動への積極的な参加を推進する。(地域・地域人材の活用と地域行事への参加・地域貢献)

【評価方法】

児童、教職員に対して、アンケート用紙により回答を得た。

質問に対しての回答選択肢は4段階になっている。

- A：そう思う
- B：ほぼそう思う
- C：あまりそう思わない
- D：そう思わない

の4段階で、このうちAとBは肯定的なプラス評価であり、CとDは否定的なマイナス評価である。

AとBのどちらを選ぶか、CとDのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・回答時

点の状況等が関係するため、A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりも、A・B合わせてのプラス傾向、C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が、全体的な傾向をつかみやすくなる。そこで、各項目の回答に占める「A・B」の割合、「C・D」の割合を求め、

- 「A・B」の割合が大きいほど肯定的評価（プラス評価）
- 「C・D」の割合が大きいほど否定的評価（マイナス評価）

と判断をした。

1 第1回児童アンケートの考察

【全体的な傾向】

全20の質問項目中、肯定的評価が90%以上の項目が15、4項目が80%以上1項目が78.2%であり、全体的に肯定的評価が多い。児童の学校生活は概ね満足していると考えられる。しかし、肯定的評価の「そう思う」の割合と「ほぼそう思う」の割合では、「そう思う」が80%以下である項目がみられる。次の6つの項目については課題があるにとらえ、指導の改善を図っていききたい。

1の項目「学校へ行くことが楽しいです」について

「学校が楽しい」と感じている割合は、96.4%と肯定的な評価は高い。肯定的な回答の中で「そう」は71.6%、「ほぼ」は24.8%であり、あまりそう思わない2.4%、そう思わない1.2%と回答している。すべての児童が楽しいと思える学校生活を送ることができるよう改善を図りたい。

8の項目「困った時に相談にのってくれる友達があります」について

児童は、日常生活の中で様々な困難に遭遇する。一人で考えこんだり悩んだりせずに、相談できる人がいることはとても大切である。肯定的な回答は92.1%と高いが「そう」の割合は全校で68.3%である。否定的な回答は6.9%見られる。誰にも相談できない児童がいることのないように、一人ひとりの児童にしっかりと目を配り、児童が孤立しないような指導を心がけていききたい。

9の項目「学校の授業がわかります」について

「学校の授業がわかる」ことは、学校生活を送る上で最も大切なことの一つである。児童の肯定的な回答は93.1%であり、概ね満足できる結果である。しかし、「そう」の割合は66.5%である。否定的な回答は6.9%という結果であった。今まで以上に授業改善に努力していく必要がある。特に否定的な回答をした6.9%の児童に対し、授業がわかり楽しいと感じられるように、基礎基本を大切にした授業を展開していききたい。TTや教育ボランティアの活用についてもさらに研究を深めていききたい。

10の項目「自分で考えたことを進んで発表しています」について

発言をすることに対して、児童の肯定的な回答は78.2%と昨年度の73.2%より高い結果であったが80%を下回っている。自分の考えを伝え合う学習を取り入れ、授業方法を工夫してきた成果が見

られた。高学年になるほど否定的な回答が増えていくことが本校の課題の一つとしてとらえ、校内研究会においても全職員で共通理解を図り授業改善に取り組んでいきたい。

12の項目「家族に学校での出来事についてよく話します」について

家族は生活するうえで一番の基本となる児童の居場所である。いじめや問題行動などの早期発見につながる大切な場所でもある。肯定的な回答は82.8%であるが「そう思う」と回答した児童は55.6%と約半数である。否定的な回答をした児童は17.2%存在する。話す時間や機会がないのか、また話を聞いてもらえないのか、一人ひとりの児童の内面をよく観察していきたい。そして、保護者と連携をしっかりと取り合い児童の指導にあたりたい。

15の項目「本をよく読みますか」について

教科の学力が高いことと、読書量(読書好き)には高い関係性があることが報告されている。肯定的な回答は82.2%であるが、否定的な回答をした17.8%の児童に対し、読書の楽しさや大切さについて指導していく必要がある。図書の時間や家庭での読書(県教委も内読の推進を呼びかけています。)について、さらに改善を図っていききたい。また、図書委員会の取り組みや職員やボランティアさんの読み聞かせなど、さらに改善を図り、児童の読書への意識を高めていききたい。

2 第1回職員アンケートの考察

【全体的な傾向】

教職員自己評価の結果は、すべての質問項目において肯定的回答が多数を占め、学校長の指導の下、学校教育目標達成のために全職員が協力して努力していることがわかる。

I 教育目標に関して

とても高い評価を得ている。しかし、学校教育目標を意識して教育活動を行っているかについて、職員の中で温度差がある結果が出ている。校長の掲げる学校教育目標の達成のため、職員が一致団結して教育活動を進められるよう取り組んでいきたい。

II 学校経営・組織について

とても高い評価を得ている。児童は行事を通して多くのことを学んでいく。充実した学校生活を送るうえで学校行事の果たす役割は大きいと考える。今まで積み重ねてきた伝統を大切に、児童にとってより有意義な学校行事が展開されるよう努めたい。しかし、学校行事の共通理解という点においてはやや課題がみられる。学校の教育活動が円滑に進むためには、職員の共通理解を図ることが大切である。月1回の職員会議や毎週金曜日に行われる終礼において、早めの提案を心がけしっかり準備を行い行事を進めていきたい。

III 学習指導・児童指導について

本校職員は、常に高い意識を持ち児童の指導に当たっている。学習指導は学校教育の最重要項目である。一人ひとりの児童が「勉強が楽しい」「授業がよくわかる」と思えるよう、日々授業改善に努めていきたい。また、基礎基本の定着には家庭学習が大切である。宿題の出し方や取り組み方、さら

には保護者への理解を深める取り組みを今まで以上に進めていきたい。

いじめのない学級づくりは、最も大切にしたい学級経営の一つである。いじめや非行行動など、子どもの間違った行動に対し、学校は早期発見早期対応につとめていかなければならない。また、保護者との連携も密にとり指導にあたる必要がある。担任が児童一人ひとりに寄り添い、さらには保護者と協力する中で指導を進めていきたい。全ての児童がいじめのない居心地がよいといえる学級づくりを目指して学級経営にあたりたい。

IV 安全管理

学校は、子どもにとって安心して安全な場所でなければならない。定期的に安全点検を実施し、子どもたちの過ごしやすい環境整備に努めてきた。安全点検、設備修理等をこまめに行い、児童の安全確保や事故防止について不測の事態が起こらぬように努力していきたい。

子どもたちの安全確保や事故防止についても、日々の指導の充実を図り、様々な場面を想定して訓練を実施している。また、保護者と連携し通学路の安全点検や街頭指導を行ってきた。今後も、保護者や地域と一体となり、児童の安全確保や事故防止へのご協力をお願いし、安全教育を推進していきたい

V 保護者・地域との連携

授業参観や学校行事などで保護者が学校や児童の様子を参観できる日を設けている。授業参観や学校行事の持ち方については、各主任を中心に計画的に行われておりよい成果が見られた。今後も保護者や地域に開かれた学校づくりを積極的に進めていきたい。

電話や連絡帳などを通し、保護者からはさまざまな相談が寄せられている。管理職を中心に学年主任や生徒指導と連携する中で、組織として対応できている。これからも丁寧な説明と素早い対応に心がけ、信頼される学校づくりに努めていきたい。

3 まとめ

アンケート調査の結果を見ると、児童・教職員あわせ、すべての項目でプラス評価がマイナス評価を上回っている。日常行われている教育活動を継続していくことが大切であるといえる。

しかし、マイナス評価が大きい割合になっているいくつかの項目や、日ごろの教育活動から感じられることから、課題となっていることがある。

それらをまとめると、次のようなことになる。

【学校生活について】

○学校が楽しいと思わない否定的な回答をした児童にしっかりと目を向け、児童一人ひとりをしっかりと見守っていきたい。困ったときに誰かに相談できることを、全職員で共通理解を図りながら指導にあたりたい。

【学習について】

○基礎基本の定着や個に配慮した授業指導については高い評価を得られた。発言または意見を言うこととあわせて友だちと学び合うことは、学力を向上させる上でも大切なことである。また、安心し

て発表がおこなえる雰囲気の学級をつくっていくことは、互いを認め合うことにもなり、いじめのない学級づくりにも通じている。校内研究会の充実とともにさらに授業改善を図っていきたい。

○学習内容の定着や学力の向上において、家庭学習は大事な働きをしている。現状、家庭学習の状況には個人差が大きい。日々の取り組みや、家庭学習の内容や方法を工夫し、家庭学習を充実させていきたい。さらに保護者の理解を深め今まで以上に協力を求めていきたい。

【生徒指導について】

○困ったときに相談する友達がいることは、未然防止や早期発見に大きな役割を果たす。また、保護者からの情報提供も大きな役割を果たす。さらに、学校のきまりや約束を守ることの指導は、いじめや非行行動に対する未然防止につながっていくと考える。児童会や学級会のきまりなど、児童は学校生活の中でさまざまなきまりを守りながら社会性を身につけている。すべての教育活動を通して、困ったときには誰かに相談すること、きまりや約束を守ることの大切さについてより一層重点をおき指導にあたりたい。また学校では、いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で教育活動を進めていきたい。

以上のような課題から、今後若草南小学校で取り組む重点項目を次のようにまとめた。

○すべての児童が、学校が楽しいと思えるような『居心地のよい学校づくり』を進める。

- ・児童会などの取り組みを活かし、学年や学級での活動を更に充実させ、一人ひとりの児童のよさを認める活動を進める。
- ・マイナス傾向の児童にしっかりと目を向け、活動の振り返りを行っていく。

○授業中の発言や質問または意見を言う機会を増やし、『学び合う環境づくり』に努める。

- ・基礎基本の定着を図り、「分かる授業」を進めていく。
- ・授業の中で、発言する活動を今まで以上に取り入れていく。
- ・ティームティーティング（複数教員による授業）や教育ボランティアの活用を今まで以上に充実させていく。

○『家庭学習』を充実させる。

- ・「家庭学習」のさらなる充実を図る。
- ・学年や学級単位で、ミニ強化週間を設け家庭学習の定着を図る。

○『いじめは絶対に許さない』という毅然とした態度で指導にあたる。

- ・いじめ撲滅宣言などの取り組みを、全校で進めていく。
- ・いじめのない学級づくりの取り組みを、お便りや部会の中で保護者に伝えていく。
- ・困ったときなど、誰かに相談できる人間関係づくりや雰囲気作りに努めていく。